

モーリタニア月例報告
(2019年5月)

2019年6月
在モーリタニア日本国大使館

主な出来事

【内政】

- 5月 3日 次期大統領選挙：野党候補者3名の立候補届提出
- 5月 9日 次期大統領選挙：憲法評議会による立候補者名簿暫定版の公表
- 5月15日 次期大統領選挙：モーリタニア政府による立候補者名簿確定版の公表
- 5月19日 次期大統領選挙：独立選挙委員会による選挙人数の暫定結果発表

【外政】

- 5月 1日 アブデル・アジズ大統領のG5サヘル臨時首脳会合への出席
- 5月14日 イスマイル外相及びハッターミン国防相のG5サヘル外務・防衛閣僚会合への出席
- 5月16日 サウジ・アラムコ石油中継施設への攻撃に関するモーリタニア外務・協力省コミュニケ
- 5月19日 緊急GCCサミット及びアラブ・サミットの開催に関するモーリタニア外務・協力省コミュニケ
- 5月29日 イスマイル外相のアラブ連盟臨時首脳会合準備会合出席
- 5月30日 アブデル・アジズ大統領のアラブ連盟臨時首脳会合出席

【経済】

- 5月 6日 米エクソンモービル社のモーリタニア沖合油田鉱区掘削作業の開始と新事務所開設
- 5月 6日 米KOSMOS社、モーリタニア・セネガル沖合油田開発作業権の売買意志を発表
- 5月 7日 アブデル・ヴェッタ石油・エネルギー・鉱業大臣の第50回オフショア技術会議出席
- 5月10日 モーリタニア経団連会長による天然ガス・石油分野に関する民間セクターへの呼びかけ
- 5月13日 モーリタニア・セネガル沖合の海底ガス田開発の事業規模予測
- 5月22日 米KOSMOS社及び英BP社による石油・天然ガスに関する対話型研修センター一定礎式

【開発協力】

5月22日 草の根・人間の安全保障無償資金協力案件竣工・引渡式への江原功雄大使の出席

【内政】

●次期大統領選挙：野党候補者3名の立候補届提出（5月3日付当地独立系ニュースウェブサイト「アル＝アフバール」）

5月3日、マウルード野党UFP党首（野党連合FNDU現議長兼任）、ムハンマド・ラミン・ウルド・アル＝ムルタジー・ウルド・アル＝ワーフィー氏（経済・財務省幹部）及びカン・ハミドゥ・ババ氏（元国民議会議員）が、それぞれ憲法評議会に対し、本年6月に実施予定の次期大統領選挙への立候補届を提出した。

●次期大統領選挙：憲法評議会による立候補者名簿暫定版の公表

5月9日、当地憲法評議会が、6月22日に第1回投票が実施される大統領選挙の立候補者名簿の暫定版を公表した。立候補者は以下のとおり。

1 立候補者（全6名、憲法評議会公表の名簿順）

- (1) ガズワニ (Mr. Mohamed Ould Cheikh Mohamed Ahmed Ould EL GHAZOUANI)
- (2) ブーバッカル (Mr. Sidi Mohamde BOBACAR Boussalev)
- (3) ビラム (Mr. BIRAMA Dah Abeid)
- (4) マウルード (Mr. Mohamde Sidi MAOULOUD)
- (5) アル＝ムルタジー (Mr. Mohamed Lemine EL MOURTEJE Wavi)
- (6) ハミドゥ・ババ (Mr. Kane HAMIDOU BABA)

2 今後の予定

(1) 上記6名の立候補者は、憲法評議会に対し、選挙日程に関する大統領府発表が行われた4月16日以降、5月8日の締切までの期間に、立候補届を提出した。

(2) 同評議会が公表した名簿は暫定版であり、今後、同評議会が、各候補より提出された立候補届に問題がないか、憲法及び関連法に照らし合わせて確認・審査を行い、5月22日にモーリタニア政府が立候補者名簿の確定版を公表する予定。

●次期大統領選挙：モーリタニア政府による立候補者名簿確定版の公表（5月16日付当地政府系紙「オリゾン」及び同「シャアブ」）

5月15日、モーリタニア政府が、6月22日に第1回投票が実施される大統領選挙の立候補者名簿の確定版を公表した。立候補者は以下のとおり。

1 立候補者（全6名、憲法評議会公表の名簿順）

- (1) ガズワニ (Mr. Mohamed Ould Cheikh Mohamed Ahmed Ould EL GHAZOUANI)
- (2) ブーバッカル (Mr. Sidi Mohamde BOBACAR Boussalef)
- (3) ビラム (Mr. BIRAM Dah Abeid)
- (4) マウルード (Mr. Mohamed Sidi MAOULOUD)
- (5) アル＝ムルタジー (Mr. Mohamed Lemine EL MOURTEJE El Wavi)
- (6) ハミドゥ・ババ (Mr. Kane HAMIDOU BABA)

2 今後の予定等

5月8日に憲法評議会が公表した立候補者名簿の暫定版に基づき、モーリタニア政府は22日までに同名簿の確定版を公表する予定であったが、モーリタニア政府は、当初の予定より1週間前倒しで確定版名簿を公表した。

6月7日～20日までの2週間、上記候補6名は、全国各地で選挙キャンペーンを実施し、22日に第1回投票が実施される。第1回投票にて過半数を制する候補者がいない場合、上位2名の決選投票となる第2回投票が7月6日に実施される。大統領就任式の日程を含め第2回投票以降の日程は未定。

●次期大統領選挙：独立選挙委員会による選挙人数の暫定結果発表（5月20日付「オリゾン」）

5月19日、独立選挙委員会（CENI）による、本年4月24日から5月14日まで実施した選挙人名簿作成の結果、新規有権者となった12万7,215人を含む計32万9,560人が登録され、今次の選挙人数は計154万4,132人となったと暫定結果が発表された。

【外政】

●アブデル・アジズ大統領のG5サヘル臨時首脳会合への出席（5月2日付「シャアブ」）

1 5月1日、アブデル・アジズ大統領は、G5サヘル諸国首脳及びメルケル独首相と共に、ブルキナファソの首都ワガドゥグで開催されたG5サヘル臨時首脳会合に出席した。

2 同会合では、治安・開発分野における諸課題及び欧州諸国、特に独とのパートナーシップにつき協議され、メルケル独首相は、G5サヘルは、地域及び世界が直面する課題に立ち向かうために必要な意思と民族性を備えていると強調した。

3 独は、G5サヘルにとって戦略的パートナーであり、首都ヌアクショットのG5サヘル国防学校への機材供与を含む支援に貢献した。また、独は、G5サヘルに対し、総額4,800万ユーロの支援を行うとともに、G5サヘルの

サヘル同盟への加入を後押しした。

4 アブデル・アジズ大統領を含むG5サヘル諸国首脳は、本会合の直前にメルケル独首相と会談を行い、G5サヘル合同部隊の強化、暴力と過激主義による被害を受けている住民に対する支援、開発分野における協力の促進及び世界全体の治安と将来を担う活気に満ちたサヘル地域における平和と安定の実現のための方策に関して協議した。

●イスマイール外相及びハッターミン国防相のG5サヘル外務・防衛閣僚会合への出席（5月14日付「モーリタニア通信（AMI）」）

1 G5サヘル外務・防衛閣僚会合参加

（1）5月14日、イスマイール外相及びハッターミン国防相は、ブリュッセルで開催されたG5サヘル外務・防衛閣僚会合に出席した。同会合には、G5サヘル諸国及びEUの外務・防衛閣僚が出席し、サヘル地域の治安情勢及びG5サヘル合同部隊の活動について協議された。

（2）イスマイール外相は、同会合がG5サヘル合同部隊の活動の妨げとなる障害を軽減する結果となることを祈念するとともに、G5サヘルに対するEUの興味関心及び支援に対して謝意を表した。

（3）ハッターミン国防相は、EU及びG5サヘル諸国に対し、G5サヘル合同部隊に対する支援の必要性を訴えた。

2 EU外務・安全保障政策上級代表との会合

同日、G5サヘル外務・防衛閣僚会合のマージンにおいて、イスマイール外相及びハッターミン国防相は、モゲリーニ（Ms. Federicko MOGRINI）EU外務・安全保障政策上級代表と会談し、モーリタニア・EU間関係強化の方途及び両国共通の関心事項に関して協議した。

●サウジ・アラムコ石油中継施設への攻撃に関するモーリタニア外務・協力省コミュニケ（5月16日付「シャアブ」及び「オリゾン」）

1 モーリタニア・イスラム共和国は、友好国であるUAE及びサウジアラビア、更には地域全体の平和と安定、地域における国際航行及び世界のエネルギー供給体制を脅かした2件のテロ攻撃、すなわちUAE沖を航行中の多国籍商業船4隻に対する破壊行為と、サウジアラビア東部から同国西岸地域に伸びる石油パイプラインのポンプ施設2か所に対する爆発物を搭載したドローンによる攻撃を最も強い言葉で非難する。

2 モーリタニアは、上記2件のテロ攻撃を強く非難するとともに、友好国であるサウジアラビア及びUAE政府・国民に対する連帯を表明する。また、モーリタニアは、地域の平和と安定に対する全ての脅威に立ち向かうために両国

が実施する政策に対する全面的な支持を表明する。

●緊急GCCサミット及びアラブ・サミットの開催に関するモーリタニア外務・協力省コミュニケ（5月20日付「シャアブ」及び「オリゾン」）

1 モーリタニア・イスラム共和国は、地域の平和と安定を強化するために、ラマダン月25日（注：5月30日）に開催されるGCCサミット及びアラブ・サミットへのサルマン・サウジアラビア国王からの招待を歓迎する。

2 モーリタニア・イスラム共和国は、地域が危機に直面し、結束する必要性がある現状において、知恵を結集し、アラブの結束を強化するためのサウジアラビアの努力を高く評価する。

●イスマイル外相のアラブ連盟臨時首脳会合準備会合出席（5月29日付「モーリタニア通信（AMI）」）

5月29日、イスマイル外相が、「将来に向けた一致団結」を会合のテーマとしサウジアラビア・メッカにて開催される第14回イスラム協力機構（OIC）首脳会合の準備会合として、ジッダで開催したOIC外相会合に出席した。

●アブデル・アジズ大統領のアラブ連盟臨時首脳会合出席（5月31日付「オリゾン」）

1 アブデル・アジズ大統領のアラブ連盟臨時首脳会合の出席

（1）5月30日夜、アブデル・アジズ大統領は、サウジアラビア・メッカのサファー宮殿で開催されたアラブ連盟臨時首脳会合に出席した。同会合では、UAE領海を航行中の商業船及びサウジアラビア領域内の石油パイプラインのポンプ施設に対する攻撃問題並びにそれらが同地域の安全及び安定に与えた影響について議論された。同会合は、コーランの詩の朗読及び第30回定例アラブ・サミット議長であるエセブシ・チュニジア大統領のスピーチで始まり、同大統領は、スピーチにおいて、サウジアラビアの都市や船、石油パイプラインのポンプ施設が攻撃の標的となったことにつき非難し、過激主義及びテロリズムとの闘いへの努力を集結させることを訴えた。

（2）同会合の主催者である、サルマン・サウジアラビア国王は、開会のスピーチにおいて、パレスチナ問題がアラブにとって第一課題であると言及した上で、同会合は、アラブ諸国が直面する課題に向き合うために開催されたと述べた。

（3）開催のスピーチ後、アブデル・アジズ大統領、シーシ・エジプト大統領、アブドゥラー・ヨルダン国王、ハリーフア・バーレーン国王、バルハム・イラク大統領、アッバース・パレスチナ大統領がスピーチを行った。

2 アブデル・アジズ大統領のスピーチ要旨

(1) サルマン国王及びサウジアラビア国民の温かく寛大な歓迎に対し、謝意を表す。

(2) アラブ諸国は、破壊的テロ活動及び数々の武力紛争、分裂及び武装による緊張化を引き起こす外部からの介入、国家を破壊し、アラブ人の国外追放を進めるテロリスト集団の活動等、治安面において、数多くの重大な課題に直面している。

(3) 世界で最も安定した地域の一つでありながら、神によってもたらされたエネルギー資源を有すがゆえに最もセンシティブでもあるアラブ湾岸諸国の不安定化を謀る度重なる企てによって、破壊的活動は増加している。同活動の深刻さは、先般のサウジアラビア及びUAEの安定と治安を脅かしたテロ活動からも明らかである。

(4) モーリタニア・イスラム共和国は、サウジアラビア及びUAEに対し、強固な支持を表明するとともに、アラブ湾岸地域における国際航行及び石油の国際市場への供給体制を脅かす破壊行動に対し、最も強い言葉で非難する。また、我々は、国際社会に対し、国際経済システムに悪影響を及ぼし、世界の石油需要の大部分を賄う(同)地域の平和と安定を侵害する破壊行為に対する責任を負うよう要求する。

(5) 同攻撃及び襲撃は、サウジアラビア及びUAEのみを標的としているわけではない。湾岸地域が戦略的かつ経済的重要性を持ち、アラブ諸国の開発推進においてサウジアラビア及びUAEが積極的な役割を果たしているという理由から、我々にも向けられている。我々の愛国的義務は、再度一致団結すること、そして各国の平和にとっても肝要な同地域の平和を脅かしかねない全てに対し、立ち向かうことである。

【経済】

●米エクソンモービル社のモーリタニア沖合油田鉦区掘削作業の開始と新事務所開設(5月6日付当地独立系ニュースウェブサイト「Financial Afrik」(仏語))、米エクソンモービル社が、モーリタニア沖合の油田鉦区において同社が開発許可権を得ているC14及びC17、C22鉦区での掘削を開始するとともに、ヌアクショットに、新しい事務所を開設した。なお、同社は、2017年に右3鉦区の開発許可権を取得し、2018年には2D及び3D鉦区での地震探査を開始しており、同社責任者は、2019年は、同社にとって、モーリタニアにおける第一油井掘削の潜在性への評価の年となるだろうと言及した。

●米KOSMOS社、モーリタニア・セネガル沖合油田開発作業権の売買意志

を発表（5月6日付米KOSMOS社コミュニケ（同社HP））

1 2019年の第1四半期における、米KOSMOS社の純損失は5300万米ドルであり、希薄後の一株あたりの利益は0.13米ドルとなった。

2 イングリス同社会長兼最高責任者は、モーリタニア及びセネガルに同社が所有する作業利権のうち10%を売却する意向が、大きな関心を呼んでおり、今夏の終わりには入札が可能となるように、正式な（売却）プロセスを開始したと言及した。

3 本年4月、同社は、米KBR社との間で、米KOSMOS社が作業利権を所有するモーリタニア・セネガル沖合油田鉱区（GTA）開発第2フェーズ及び第3フェーズのPre-Feed（概念設計）作業に係る契約を交わした。これら将来的なフェーズにおいては、ハブにおける輸出用液化天然ガス容量が、年間約1,000万トンに拡張されると予想される。5月初旬には、全ての主要契約者との間で、GTA開発第1フェーズにおける契約に至り、浮体式生産貯蔵積出設備（FPSO）の建設作業が既に開始されている。

●アブデル・ヴェッタ石油・エネルギー・鉱業大臣の第50回オフショア技術会議出席（5月14日付「オリゾン」）

1 5月7日、アメリカ・ヒューストンにて開催された第50回オフショア技術会議（6日から9日開催）において開催された「モーリタニアの日：経済に係る石油及び天然ガス」の中で、アブデル・ヴェッタ石油・エネルギー・鉱業大臣は、同イベントが、モーリタニアの石油・天然ガスにおける新たなセクターの発展及び石油及びガス関連オペレーターと同セクターの契約者、特に、モーリタニア・セネガル沖合の海底ガス田（GTA）開発（以下、「GTA開発」）における契約者が国営オペレーターと共に、パートナー企業獲得の機会拡大を目指したものであると述べた。

2 同イベントは、研修制度の創出、能力開発、技術移転、国家計画の評価分野の開発の実施等を可能とする戦略の一部をなしている。

3 GTA開発への参加関連企業のうち、英Mc Dermont社（正式名称は「Mc Dermott」）、米Schlumberger社、米KBR社、英Techintp FMC社、米Rowan Companies社、豪Worley Parsons社、英Susea7社、米Bechtel社、米OneSubsea社、住友（商事）、米Oceaneering社、米Halliburton社及び英BP社が、同イベントに参加した。

4 同イベントにおいて、同大臣は、ブルイレット（Mr. Dan R. BROUILLETTE）米エネルギー副大臣と会談するとともに、英BP社、米エクソンモービル社、米KOSMOS社、インドネシア・ペトロナス社（名前の挙げられている石油・

エネルギー関連企業は、モーリタニア沖合天然ガス・石油開発事業に参入している)などの石油・エネルギー関連企業の代表と会談を行い、モーリタニアの投資促進、さらには同経済及び社会発展に係る天然ガスプロジェクトの戦略及び政策について協議した。

●モーリタニア経団連会長による天然ガス・石油分野に関する民間セクターへの呼びかけ(5月13日付「オリゾン」)

1 10日、アメリカ・ヒューストンにて開催中の国際技術フォーラムのマージンにおいて開催された「モーリタニアの日：経済に係る石油及び天然ガス」の中で、ムハンマド・ゼイン・アル＝アービディーン・モーリタニア経団連会長は、同フォーラムが、エネルギー、石油及び天然ガス分野の関係者間にとって、最も大きな情報交換及び交渉のプラットフォームとなっていると発言した。また、同会長は、石油関係会社間の直接交渉は、研修制度の創出、技術移転及び能力開発のための、モーリタニアの民間セクターとエネルギー関連企業間のパートナー関係構築の重要な機会となると言及した。

2 同会長は、モーリタニアにおいて、過去10年間に大きく変化を遂げたインフラを更に強化するため、モーリタニアでの石油・天然ガス関連企業の尽力を熱望すると述べた。また、モーリタニア経団連は、エネルギー分野において、投資企業によるモーリタニア国内への投資の促進、発展及び支援に尽力すると同時に、民間セクターの基盤強化及び同変革の効果的実現のために、モーリタニアの各産業及びサービスの安全性向上にも取り組んでいることを強調した。

3 同会長は、民間セクターとエネルギー関連企業間の協力関係強化のために、地域的投資機会の発掘のための戦略プログラムや国際的プロジェクトの着工、サプライヤー支援、中小規模の地域プロジェクトの開発、多数の産業新設の奨励に加えて、投資機会に関する情報共有や積極的な民間セクターや組織化された方法の採用、契約及び売買に係る政策や手続き、規約の周期的な改善の導入など、更なる努力が必要であると強調した。

●モーリタニア・セネガル沖合の海底ガス田開発の事業規模(5月13日付「サハラ・メディア」)

1 英国のNPO団体「The Energy Industries Council」が発表したレポートによると、2019年～2024年の5年間で、モーリタニア及びセネガル両国のエネルギー・石油産業に対し、総額400億米ドルの新規投資が実施される見込みであり、2030年には、投資総額は1,000億米ドルとなると予測されている。

2 GTAは、西アフリカ地域最大級のガス田であり、4,500億立方メー

トル（15兆立方フィート以上）のガス資源を擁するとされる。昨年末、モーリタニア及びセネガルは、両国大統領の立ち会いの下、GTA開発投資の最終決定に係る合意に署名した。

●米KOSMOS社及び英BP社による石油・天然ガスに関する対話型研修センター定礎式（5月23日付「オリゾン」）

1 5月22日、オスマン（Mr. Tall OUSMANE）石油・エネルギー・鉱業省次官は、石油・天然ガスに関する対話型研修センターの定礎式に出席した。同研修センターは、モーリタニア人学生や研修生に対し、ガス及び石油分野の研修を実施するとともに、行政管理職の能力向上のための長期的な研修を提供することを目的としている。米KOSMOS社及び英BP社が共同出資した同事業の総拠出額は500万米ドルに及ぶ。受付、教室、会議室、休憩室等を完備した直径18.6メートルの半円状の研修センター（総面積560平方メートル）が建設予定であり、完成は6か月後の予定。

2 同研修センターの定礎式において、アンダーセン（Mr. Mike Andersen）米KOSMOS社副社長は、同社のモーリタニア進出は、長期的パートナーシップを構築するためであり、同社は今後（モーリタニアの）ガス・石油分野の専門技術に投資していく旨強調した。また、同氏は、モーリタニア炭化水素・鉱業公社のプロフェッショナリズム及び技術的能力に対し感銘を受けたと述べ、また、米KOSMOS社や英BP社のような国際投資者との契約推進を進めてきた、アブデル・ヴェッダ石油・エネルギー・鉱業大臣の建設的アプローチに感謝の言葉を述べた。

3 デラネイ（Ms. Emma DELANEY）英BP社地域代表は、モーリタニア政府と英BP社間のパートナーシップの重要性を強調した上で、同センターが、モーリタニア国民に対する研修機会を供給すると言及した。また、同氏は、同センター事業は、2年間にわたる熱心な取組の賜物であり、ガス・石油産業における優秀なテクノクラートの人材育成に資すると述べた。

●江原大使とアル＝アービディン経団連会長の会談（5月24日付「シャアブ」）

1 5月23日、ゼイン・アル＝アービディン・モーリタニア経団連会長は、江原功雄大使と会談し、日・モーリタニア両国の経団連間の協力関係強化について協議した。

2 同経団連会長は、モーリタニアの民間セクターの現状、同国における莫大な投資機会及び継続的に改善している同国のビジネス環境につき説明するとともに、日本のビジネス関係者に対して、モーリタニアへの投資を呼びかけた。

3 江原大使は、卓越した日・モーリタニア二国間関係及び様々な分野におけ

る二国間関係の急速な進展を高く評価するとともに、二国間関係の強化及び協力分野の拡大に貢献する民間セクターの役割を賞賛した。

4 また、江原大使は、モーリタニア人ビジネス関係者に対し、アフリカ諸国首脳に加え、多数のアフリカ人及び日本人ビジネス関係者の参加を得て、本年8月に横浜で開催される第7回アフリカ開発会議（T I C A D）への参加を呼びかけた。同会合では、日本とアフリカの官民ビジネス対話セッションが実施され、貿易及び投資の促進に向けて協議が行われる。また、投資・ビジネス環境を向上させ、アフリカの経済関係者と日本との関係を強化するため、展示会やビジネスフェアが実施される。

5 ゼイン・アル＝アービディン経団連会長は、モーリタニア経団連が日本からの招待に応じ、T I C A D 7への参加について強調するとともに、モーリタニア経団連が、投資を増大させ、商業関係を発展させるべく、日・モーリタニア二国間関係の更なる強化を望んでいることを改めて強調した。

【開発協力】

●草の根・人間の安全保障無償資金協力案件「ヌアクショット・セブハ保健センター衛生改善計画」引渡式への江原功雄大使の出席

5月22日、江原大使は、平成29年度対モーリタニア草の根・人間の安全保障無償資金協力「ヌアクショット・セブハ保健センター衛生改善計画」の竣工・引渡式に出席した。本支援により、焼却炉2台及び胎盤処理槽の建設、公衆トイレ及び発電機小屋の改修、洪水被害抑制のための盛り土工事が実施され、セブハ市の住民72,245人が受ける医療サービスの質の改善が期待される。



(了)